

秋田県埋蔵文化財センター年報

32

平成25年度

2014・3

秋田県埋蔵文化財センター

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の「岩佩」です。

縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

序

秋田県埋蔵文化財センターが埋蔵文化財の調査と研究を目的に史跡弘田柵跡の正面に設立されてから33年になります。この間、平成20年度に資料管理活用班を設けるなど、埋蔵文化財を活用した普及事業も推進してまいりました。

当センターが平成25年度に実施した調査は、河川改修事業や県道建設事業などに伴う発掘調査が3遺跡、成瀬ダム建設事業などに係る確認調査が4遺跡です。

大川端道ノ上遺跡では、縄文時代後期のお墓や貯蔵穴が見つかり、また中国産青磁の出土から、13世紀頃の屋敷跡で掘立柱建物・井戸・溝・火葬墓などが造られていたことがわかりました。

貝保遺跡では、出土した土器から、7基の井戸や掘立柱建物などが奈良～平安時代の集落を構成していたことがわかってきました。調査終了時に行った遺跡見学会では、参加いただいた多くの地元の皆さんが地域の歴史の奥深さに感心を示され、埋蔵文化財が、祖先が生きてきた証であり、私たちの暮らしの礎をなすものであることを知っていただく機会となりました。

普及事業では、当センターで開催した企画展「蝦夷と俘囚－古代の秋田人－」やそれに関連した講演会＋座談会「エミシ・俘囚・エゾ」に、県内はもとより県外からも多数の参加がありました。また、例年行っている「古代発見！バスツアー」や「ふるさと考古学セミナー」などにも多くの参加者があり、中には毎年のように参加される考古・歴史ファンの方々もいて、着実に普及活動の成果が上がっているように思われます。

本書は平成25年度に秋田県埋蔵文化財センターが実施した事業活動をまとめたものであります。これまで行ってきた埋蔵文化財の調査や活用事業は、文化財保護思想の普及の一翼を担ってきたものと考えております。

今後とも当センターの事業につきましては、一層の御理解と御支援をいただきますようお願い申し上げます。

平成26年3月

秋田県埋蔵文化財センター

所 長 高 橋 忠 彦

目 次

序	
目次	
I 沿革	1
II 組織・施設	1
1 組織	1
2 施設の概要	1
III 秋田県埋蔵文化財センター平成25年度の歩み	2
IV 事業の概要	3
1 発掘調査	3
2 確認調査	3
3 埋蔵文化財発掘調査	4
(1)平成25年度秋田県内発掘調査遺跡(位置図・一覧表)	4
(2)発掘調査概要	6
大川端道ノ上遺跡	6
貝保遺跡	8
払田柵跡(第147次調査)	10
4 刊行物一覧	12
5 活用・普及事業	14
(1)秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会	14
(2)遺跡見学会	15
(3)学校(教育)サポート	16
①セカンドスクール	16
②ボランティア・職場体験(インターンシップ)	16
③出前授業	17
(4)主催事業	18
①企画展	18
②ふるさと考古学セミナー	19
③古代発見! バスツアー	20
④出張展示	22
(5)共催・機関連携等による普及事業	22
①農業科学館まつり	22
②土器に生ける秋の草花展	23
③あきた県庁出前講座	23
④美の国アクティヴカレッジ連携講座「発掘! 考古ゼミ」	23
(6)その他	24
①所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し実績	24
②センターの開放と展示	24
③図書整理・図書一般公開	24
(7)研究論文・講演等	25
6 運営協議会	25
V 平成25年度研修事業	27
1 研修受け入れ	27
2 職員研修	27
3 発掘調査における実測作業のデジタル処理に関する研修	28
VI 職員名簿	29

I 沿革

昭和55年2月	秋田県埋蔵文化財センター設立計画公表
昭和55年10月26日	建設工事開始
昭和56年8月31日	センター、第1収蔵庫完成
昭和56年10月1日	設置条例施行、職員発令、業務開始
昭和56年11月2日	落成記念式典挙行
平成5年1月	第2収蔵庫完成
平成10年4月2日	鷹巣町に秋田北分室開設
平成11年12月20日	秋田市に秋田整理室開設
平成12年4月4日	秋田整理室が秋田中央分室となる
平成13年4月2日	機構改革により南調査課、北調査課、中央調査課の3課体制となる
平成13年6月20日	秋田県甘肅省文化交流事業により交流員の相互交流開始
平成14年3月2日	秋田県埋蔵文化財センター設立20周年記念式典挙行
平成15年10月17日	秋田県甘肅省文化交流事業磨子遺跡合同発掘調査開始
平成15年10月30日	センター屋根、外壁、内部大規模改修工事
平成17年4月1日	男鹿市に中央調査課男鹿整理収蔵室開設
平成20年3月31日	北調査課、中央調査課閉課
平成20年4月1日	機構改革により総務班・調査班・資料管理活用班・中央調査班の4班体制となる。
平成22年7月1日	秋田市に中央調査班移転
平成24年3月6日	秋田県埋蔵文化財センター設立30周年記念式典挙行

II 組織・施設

1 組織



2 施設の概要

本所（総務班・調査班・資料管理活用班）

所在地	〒014-0802 秋田県大仙市弘田字牛嶋20		
TEL	0187-69-3331	FAX	0187-69-3330
敷地面積	6,962.000㎡		
本所建物	鉄筋コンクリート 2 階建	1,527.304㎡	
第 1 収蔵庫	鉄骨造平屋建	360.000㎡	
第 2 収蔵庫	鉄骨造平屋建	297.680㎡	
電気・ポンプ室	平屋建	59.780㎡	

中央調査班

所在地	〒010-1621 秋田県秋田市新屋栗田町11-1		
TEL	018-893-3901	FAX	018-893-3899
建物	鉄筋コンクリート平屋建		2,141.000㎡

男鹿収蔵庫

所在地	〒010-0502 秋田県男鹿市船川港比喩字餅ヶ沢200		
敷地面積			55,521.000㎡
建物	鉄筋コンクリート3階建	7,524.360㎡	

Ⅲ 秋田県埋蔵文化財センター平成25年度の歩み

【平成25年】

- 4月1日 平成25年度秋田県埋蔵文化財センター新任式(中央調査班)
2日 平成25年度秋田県埋蔵文化財センター新任式(本所)、第1回全体職員会
5月30日 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会(～5/31、会場：兵庫県神戸市)
31日 定期監査
6月12日 第1回埋蔵文化財センター運営協議会
17日 大川端道ノ上遺跡発掘調査開始(～10/17)
19日 貝保遺跡確認調査開始(～6/28)
20日 第1回 古代発見！バスツアー「県南の遺跡探訪コース」
秋田市(発)→ 神谷地遺跡・小出遺跡 → 高松地区センター(長蓮寺遺跡、三途川化石資料見学) → 岩井堂洞窟 → 院内銀山異人館(岩井堂洞窟資料等見学) → 秋田市(着)
24日 西板戸遺跡確認調査開始(～6/28)
25日 第2回 古代発見！バスツアー「県南の遺跡探訪コース」
28日 貝保遺跡確認調査終了
西板戸遺跡確認調査終了
7月2日 出張展示「鬼に金棒・土偶に石棒」(～8/17、会場：秋田県立図書館)
7日 企画展「蝦夷と俘囚-古代の秋田人-」開始(～H26.3/31、会場：特別展示室)
21日 第1回 ふるさと考古学セミナー「土偶ユニバース」(会場：秋田県立博物館)
8月11日 第2回 ふるさと考古学セミナー「クマと土偶とシャマンと」(会場：秋田県立図書館)
23日 埋蔵文化財センター職員技術研修会(会場：大川端道ノ上遺跡)
9月2日 貝保遺跡発掘調査開始(～10/29)
9日 教育公安委員会、弘田柵跡視察
14日 企画展 講演会+座談会「エミシー俘囚-エゾ」(会場：秋田市文化会館小ホール)
30日 奈文研研修「三次元計測課程」(～10/4、会場：奈良文化財研究所)
10月1日 第3回 古代発見！バスツアー「みちのくの古墳探訪コース」
秋田市(発)→ 秋田県埋蔵文化財センター企画展見学 → 江釣子古墳群 → みちのく民俗村・北上市立博物館(江釣子古墳群出土品等見学) → 秋田市(着)
3日 第4回 古代発見！バスツアー「みちのくの古墳探訪コース」
7日 弘田柵跡第147次発掘調査開始(～11/22)
8日 第5回 古代発見！バスツアー「みちのくの古墳探訪コース」
12日 大川端道ノ上遺跡見学会
15日 小勝田館跡確認調査開始(～11/5)
17日 大川端道ノ上遺跡発掘調査終了
19日 第3回 ふるさと考古学セミナー「縄文前期の社会」(会場：能代市中央公民館)
21日 トクラ遺跡確認調査開始(～11/1)

- 26日 貝保遺跡見学会
 29日 貝保遺跡発掘調査終了
 11月1日 トクラ遺跡確認調査終了
 5日 小勝田館跡確認調査終了
 16日 第4回 ふるさと考古学セミナー「末期古墳の西東」（会場：秋田県立博物館）
 22日 弘田柵跡第147次発掘調査終了
 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会役員会（会場：東京都 都道府県会館）
 12月5日 第1回研修報告会（会場：埋蔵文化財センター中央調査班）

【平成26年】

- 2月5日 第2回 埋蔵文化財センター運営協議会
 3月9日 平成25年度 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会（会場：秋田県生涯学習センター）
 14日 第2回研修報告会（会場：埋蔵文化財センター中央調査班）
 28日 第2回全体職員会・離任式

Ⅳ 事業の概要

1 発掘調査

平成25年度に秋田県埋蔵文化財センターが行った事業別の発掘調査は以下のとおりである。

国土交通省関係

○雄物川上流河川改修事業（寺館・大巻地区）：大川端道ノ上遺跡

秋田県建設交通部関係

○一般県道秋田八郎潟線建設事業：貝保遺跡

秋田県農林水産部関係

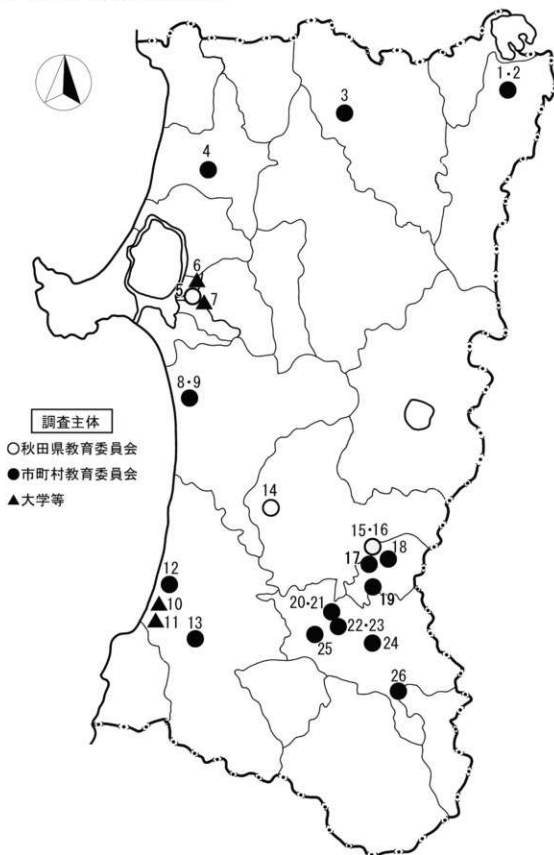
○ほ場整備事業（本堂城回地区）：弘田柵跡（147次調査）

2 確認調査

	事業名	遺跡名・所在地	調査期間	調査担当
1	一般県道秋田八郎潟線建設事業	貝保遺跡 （八郎潟町）	6月19日～6月28日	水品 仁志 山村 剛
2	雄物川上流河川改修事業（西板戸地区）	西板戸遺跡 （大仙市）	6月24日～6月28日	山田 徳道 佐々木尚人
3	一般県道大館能代空港西線建設事業	小勝田館跡 （北秋田市）	10月15日～11月5日	山田 徳道 築瀬 圭二
4	成瀬ダム建設事業	トクラ遺跡 （東成瀬村）	10月21日～11月1日	加藤 竜 伊豆 俊祐

3 埋蔵文化財発掘調査

(1) 平成25年度秋田県内発掘調査遺跡



平成25年度県内発掘調査遺跡位置図

平成25年度県内発掘調査遺跡一覧表

No.	遺 跡 名	所 在 地	調査期間	調査面積 (㎡)	調査主体者	事業名等	主な時代・性格
1	下内野Ⅳ遺跡	鹿角市十和田大湯字下内野	11/16～12/5	21	鹿 角 市 教育委員会	学術調査	縄文・集落跡
2	下内野Ⅴ遺跡	鹿角市十和田大湯字下内野	7/24～10/28	149	鹿 角 市 教育委員会	学術調査	縄文・集落跡
3	中茂屋遺跡	大館市山田字茂屋屋後	8/20～12/13	136	大 館 市 教育委員会	下水道工事	縄文・集落跡
4	梯ノ台遺跡	能代市中沢字梯ノ台	4/19～6/7	880	能 代 市 教育委員会	電気関係設備建設	縄文・狩猟場
5	貝保遺跡	八郎潟町川崎字貝保	9/2～10/29	1,210	秋 田 県 教育委員会	県道建設事業	奈良・平安・ 集落跡
6	下台遺跡	八郎潟町小池字岡本下台	9/1～9/13	100	弘 前 大 学	学術調査	縄文・集落跡
7	中山遺跡	五城目町高崎字中泉田	8/26～9/13	100	弘 前 大 学	学術調査	縄文・集落跡
8	史跡秋田城跡 (第102次)	秋田市寺内嶋山	5/20～9/26	726	秋 田 市 教育委員会	学術調査	奈良・平安・ 城壕官衙跡
9	史跡秋田城跡 (第103次)	秋田市寺内嶋山	10/9～11/7	70	秋 田 市 教育委員会	学術調査	奈良・平安・ 城壕官衙跡
10	客殿森遺跡	由利本荘市西目町西目字客殿	5/10～5/13	87	由 理 理・ 駅家研究会	学術調査	平安・散布地
11	井岡遺跡	由利本荘市西目町西目字井岡	11/14～11/19	84	由 理 理・ 駅家研究会	学術調査	平安・集落跡
12	岩淵蔵遺跡	由利本荘市美倉町	5/27～8/29	1,200	由利本荘市 教育委員会	市消防庁舎建設事業	江戸・蔵屋敷跡
13	滝沢城跡	由利本荘市前郷字滝沢館	6/3～8/2	791	由利本荘市 教育委員会	市営団地造成	江戸・城跡
14	大川路遺跡ノ上 遺跡	大仙市強首字大川路遺ノ上	6/17～10/17	7,700	秋 田 県 教育委員会	雄物川上流河川改修 事業	縄文・中世・ 葛城・貯蔵地・ 屋敷跡
15	史跡弘田堀跡 (第146次)	大仙市弘田字仲谷地	6/3～8/2	109	秋 田 県 教育委員会	学術調査	平安・城壕官衙跡
16	史跡弘田堀跡 (第147次)	美郷町本堂城河字百目木	10/7～11/22	80	秋 田 県 教育委員会	ほ場整備事業	平安・城壕官衙跡
17	六郷城跡	美郷町六郷字古館	6/25～7/17	112	美 郷 町 教育委員会	町道建設事業	中世・城跡
18	川端山田遺跡	美郷町金沢東根字川端山	10/30～12/5	58	美 郷 町 教育委員会	学術調査	平安・集落跡
19	陣館遺跡	横手市金沢中野字根小屋	5/20～5/31 9/17～12/10	410	横 手 市 教育委員会	学術調査	平安・城跡
20	神谷地遺跡	横手市雄物川町薄井字神谷地	5/1～8/30	5,776	横 手 市 教育委員会	ほ場整備事業	縄文・弥生・ 古墳・中世・ 集落跡
21	小出遺跡	横手市雄物川町薄井字小出・ 字神谷地	5/1～8/30	2,758	横 手 市 教育委員会	ほ場整備事業	縄文・古墳・ 中世・集落跡
22	宮下遺跡	横手市清水町新田字宮下	6/13～7/12	464	横 手 市 教育委員会	ほ場整備事業	縄文・奈良・ 集落跡
23	十文字遺跡	横手市清水町新田字十文字・ 字街道下	6/3～6/12	278	横 手 市 教育委員会	ほ場整備事業	平安・集落跡
24	金屋遺跡	横手市平鹿町間瀬字金屋	10/1～10/30	837	横 手 市 教育委員会	ほ場整備事業	縄文・平安・ 集落跡
25	蝦夷塚北遺跡	横手市雄物川町造山字蝦夷塚	10/28～11/8	125	秋 田 県 教育委員会	学術調査	奈良・平安・ 集落跡
26	上埴遺跡	東成瀬村田子内字菅生田埴	7/22～8/23	125	東 成 瀬 村 教育委員会	学術調査	縄文・集落跡

※番号は4頁の図に対応する。太字の遺跡名は次頁以降に概要を掲載している遺跡。

(2) 発掘調査概要

おおかわばたみちのうえ

大川端道ノ上遺跡

【調査要項】

所在地	秋田県大仙市強首字大川端道ノ上26外
調査期間	平成25年6月17日～10月17日
調査面積	7,700㎡
遺跡の時代	縄文時代（後期・晩期）、弥生時代、中世
遺跡の性格	墓域・貯蔵地（縄文時代後期）、屋敷跡（中世）
事業名	雄物川上流河川改修事業（寺館・大巻地区）
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所
調査担当	加藤竜、山田祐子、伊豆俊祐、赤星純平

【調査概要】

	検出遺構				主な出土遺物
縄文・弥生時代	土坑	34基	土器埋設遺構	1基	縄文時代（後期・晩期） 土器 石器
	焼土遺構	19基			
中世	掘立柱建物跡	2棟	井戸跡	1基	弥生時代
	溝跡	1条	火葬墓	1基	土器
近世以降	溝跡	1条	集石遺構	1基	中世
時期不明	柱穴列	1条	柱穴様ビット	14基	陶磁器

大川端道ノ上遺跡は、JR奥羽本線峰吉川駅の南西約2km、雄物川と乙越方面から雄物川へ注ぐ小川川との間に形成された自然堤防上に立地する。調査区の標高は16.5～18.5mであり、雄物川との比高は約8mである。調査の結果、縄文時代後期・晩期、弥生時代、中世の遺構・遺物が見つかった。

縄文・弥生時代の遺構としては、土坑・土器埋設遺構・焼土遺構を検出した。これらの分布は調査区北部と南部に濃密であり、中央部では希薄である。土坑は袋状の断面形のものや、石皿を埋納したものがあり、貯蔵穴や墓として使用されたと思われる。調査区内で出土した土器の時期は、縄文時代後期中葉・後葉、晩期前葉・後葉、弥生時代であるが、中でも縄文時代後期中葉を主体とし、遺構内出土遺物もほぼ同時期に限られる。したがって、縄文・弥生時代における人間の活動は後期中葉に最も活発で、この時期に墓や貯蔵穴の大部分が造られたと推測される。

中世の遺構としては掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡・火葬墓を検出した。これらは調査区北端部に集中する。掘立柱建物跡は3×4間と2×3間の大小2棟で、どちらも庇を持つ。両者は柱間の間隔が一致しており、近い時期に建てられたと推測される。建物の北には、区画溝と思われる浅い溝跡が斜面に沿って巡り、建物跡との間には深さ3.3m以上の井戸跡が存在する。建物跡から20mほど南には焼骨片が出土した土坑があり、火葬墓と推定される。これらの遺構群の周辺から12世紀後半～13世紀の青磁片が出土しており、調査区北側は全体として同時期の屋敷跡であったと推定される。

今回の調査で、雄物川中流河岸部における縄文時代及び中世の土地利用の様子を確認することができた。特に、雄物川を見下ろす地に構えた中世の屋敷の存在から、水運との関連性が想起される。

遺跡遠景（東から）



石皿が出土した土坑
（南東から）



掘立柱建物跡（西から）



かいほ 貝保遺跡

【調査要項】

所在地	秋田県南秋田郡八郎潟町川崎字貝保99-3ほか
調査期間	平成25年9月2日～10月29日
調査面積	1,210㎡
遺跡の時代	奈良・平安時代
遺跡の性格	集落跡
事業名	一般県道秋田八郎潟線建設事業
事業関係機関	秋田地域振興局建設部
調査担当	水品仁志、山村 剛

【調査概要】

検出遺構				主な出土遺物
奈良・平安時代				奈良・平安時代
竪穴建物跡	1棟	掘立柱建物跡	1棟	土師器 須恵器 白磁 鍬 鉄滓
柱列跡	1条	井戸跡	7基	砥石 井戸部材
窯跡	1基	溝跡	3条	江戸時代
土器埋設遺構	1基	土坑	9基	磁器
焼土遺構	2基	柱穴様ピット	211基	

貝保遺跡は、馬場目川右岸沖積低地内の標高約7mの微高地に立地する。平成13・14年度にも県道工事に先立つ調査が行われ、掘立柱建物跡や鍛冶炉跡、平安時代の土器などが検出されている。

今回の調査区は前回の調査区を挟んだ東西2か所である。西側調査区では井戸跡を6基確認した。直径は1.4～2.3m、深さは1.8～2.8mである。井戸の構造は素掘りのものと、井戸枠を組み、その外側に裏込土を埋めたものの2種類がある。いずれも堆積土中に礫や遺物が見られ、水を浄化させるために底部に敷いた玉砂利や祭祀に関わると思われるトチ・クルミの種も出土している。井戸枠は2基で確認されており、1基は先端が平らな板を立てて並べたものである。もう1基は先端の尖った矢板が二重に残っていたもので、作り替えの可能性がある。井戸を埋め戻した後の窪みに火を焚いた痕跡を残すものがあり、土師器片が多く出土することから、窪みを利用して土師器を焼成した可能性がある。その他、前回調査区に続く幅2m、深さ1mの溝跡が確認され、総延長は36mであった。溝跡の北側で柱穴様ピットが多数確認されたが、南側では極端に少なく、集落の内外を区画していた溝と考えられる。

東側調査区では、カマドとその周辺のみを確認であるが、竪穴建物跡を1棟検出し、そこから8世紀の土師器長胴甕や高坏が出土している。

前回の調査で遺跡は9～10世紀の平安時代の集落と捉えられていた。しかし今回の調査では8世紀に遡る奈良時代の土器や12世紀初頭の白磁片も出土している。また、北西100mに隣接する開防遺跡では11世紀の遺物が確認されており、この周辺では奈良・平安時代の集落が継続的に営まれていたことが判明した。

西側調査区近景
(南から)



隅柱・矢板が二重に
残る井戸枠
(北から)



竪穴建物跡のカマド
から出土した土師器
甕
(東から)



払田柵跡（第147次調査）

【調査要項】

所 在 地	秋田県仙北郡美郷町本堂城回字百目木
調 査 期 間	平成25年10月7日～11月22日
調 査 面 積	80㎡
遺 跡 の 時 代	平安時代
遺 跡 の 性 格	城柵官衙遺跡
事 業 名	県営ほ場整備事業（本堂城回地区）
事業関係機関	仙北地域振興局農林部・大仙市教育委員会・美郷町教育委員会
調 査 担 当	佐々木尚人、高橋和成、赤星純平

【調査要項】

検 出 遺 構				主 な 出 土 遺 物	
平安時代	外柵角材列	3か所	溝跡1条	平安時代	土師器 須恵器 墨書土器
	外柵布掘溝跡	1 条	柱穴1基		木製品（外柵角材片、加工木）

払田柵跡は、律令国家が本州の北部を支配するために設置した行政・軍事を司る城柵の一つで、平安時代の9世紀初めに造られ、10世紀後半まで存続する。昭和6年に秋田県初の国指定史跡となり、昭和49年度から毎年、学術調査を実施している。第147次調査は、3か年で計画された史跡内の用排水路や暗渠の改修に伴う現状変更調査の3年目に当たる。1年目に行われた第143次調査の調査区である外柵東門周辺と、2年目に行われた第145次調査の調査区である外柵北門周辺の2地区が調査対象地区であり、払田柵跡の北から東側にかけての沖積地にあたる。

本調査は、外柵線と暗渠施工計画線との交点を調査し、角材列ないし布掘溝跡の状況を確認することが目的である。基本的には布掘溝跡内の精査を行わず、角材列の残存状況はボーリング探査によって確認した。

北門周辺地区西側では残存状況を比較的密に確認し、外柵線を確定した。同地区東側の外柵推定線以上では角材列の痕跡は確認できなかったが、推定線より南で断続的ではあるが北門跡に向かって延びる溝跡を検出した。溝の上部は削平されているため詳細は不明であるが、溝の向きからは外柵布掘溝跡の可能性もある。北門から東門にかけては外柵の状況が不明確な地域であるが、今後の調査に目安となる資料を得ることができたことは一つの成果である。

東門周辺地区では第143次調査で確認されていた外柵が推定線より東に膨らみ、一部は史跡指定地外へ飛び出すという状況を再確認した。また、外柵布掘溝跡を切る不整形な溝状のプランを確認しており、このプランは角材列を抜き取る際の堀方であると推定される。布掘溝跡を検出するも角材列が当たらない部分は、開墾の際に柵木を抜き取っていることが考えられる。また、各トレンチの布掘溝跡の検出状況から、外柵東門の南北は地形的に低くなっており、東門はわずかな面積の微高地を選んで築造されていることを確認した。

外柵北門周辺地区近景
(西から)



外柵布掘溝跡検出状況
(西から)



外柵角材列検出状況
(西から)



4 刊行物一覧

遺跡名	清水尻Ⅰ遺跡・清水尻Ⅱ遺跡	発掘調査年	23年度	発行年月	25年9月
書名	秋田県文化財調査報告書第488集 清水尻Ⅰ遺跡・清水尻Ⅱ遺跡 ——一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ——				
内容	遺跡の時代 弥生時代、平安時代、中世、近世 遺跡の性格 集落跡 検出遺構 清水尻Ⅰ遺跡 平安時代：畑跡1面、溝跡1条、焼土遺構1基、土坑4基、柱穴様ビット17基 清水尻Ⅱ遺跡 弥生時代：竪穴状遺構1基、溝跡1条、土坑1基、柱穴様ビット3基 平安時代：竪穴建物跡2棟、竪穴状遺構1基、テラス状遺構4基、道路側溝跡22条、焼土遺構42基、土坑16基、柱穴様ビット91基 中世：竪穴建物跡4棟、竪穴状遺構3基、溝跡1条、集石遺構15基、焼土遺構5基、土坑7基、柱穴様ビット50基 近世：竪穴建物跡1棟、溝跡1条、道路側溝跡3条、土坑1基 時期不明：溝跡4条、焼土遺構2基、土坑6基、柱穴様ビット384基 出土遺物 弥生時代：土器、石器 平安時代：土師器、須恵器、製塩土器、土製品、金属製品 中世：陶器、石製品、銭貨、鉄製品 近世：磁器、鉄製品				

遺跡名	ハケノ下Ⅱ遺跡	発掘調査年	24年度	発行年月	25年9月
書名	秋田県文化財調査報告書第489集 ハケノ下Ⅱ遺跡 ——一般国道7号鷹巣大館道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ——				
内容	遺跡の時代 縄文時代、平安時代 遺跡の性格 散布地、集落跡 縄文時代：土坑1基、遺物集中部1か所 平安時代：竪穴建物跡1棟、溝跡3条、焼土遺構3基、畝状遺構1か所、柱穴様ビット83基 時期不明：土坑1基 出土遺物 縄文時代：土器、石器 平安時代：土師器、須恵器、鉄滓				

遺跡名	船戸遺跡	発掘調査年	24年度	発行年月	26年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第490集 船戸遺跡 ——一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ——				
内容	遺跡の時代 中世 遺跡の性格 集落跡 中世：掘立柱建物跡6棟、竪穴建物跡4棟、かまど状遺構4基、土坑47基、柱穴列1条、井戸跡11基、焼土遺構5基、火葬施設3基、溝跡5条、柱穴様ビット338基 出土遺物 中世：磁器、須恵器系陶器、木製品（曲物底板、箸等）、砥石				

書名	秋田県文化財調査報告書第491集 遺跡詳細分布調査報告書	発掘調査年	25年度	発行年月	26年3月
内容	平成25年度に実施した遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告				

書名	秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第28号	発行年月	26年3月
内容	伊豆俊祐 「古代東北北部における畑作について」 利部 修 「秋田城跡出土の龍絵について」 高橋忠彦 「古代焼失家屋にみる台所事情」 〈平成25年度企画展講演会+座談会『蝦夷と俘囚』講演録〉 高橋和成 「7～9世紀の秋田-俘囚の墓-」 児島恭子 「『蝦夷(エゾ)』の社会・文化の多様性と蝦夷論の関係」 熊田亮介 「蝦夷(エミシ)をめぐる」 座談会(司会 菊池徹夫) 「エミシ・俘囚・エゾ」		

書名	蝦夷と俘囚-古代の秋田人-	発行年月	25年7月
内容	平成25年度企画展「蝦夷と俘囚-古代の秋田人-」パンフレット。秋田に米作りが伝わった弥生時代から古墳文化／統縄文文化の時代、そしてその後、文献に秋田が登場する7世紀以降9世紀までの歴史を、県内の主な出土品を通して理解するための展示パンフレット。A4判カラー8頁。		

書名	平成25年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料	発行年月	26年3月
内容	平成25年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会の配付資料。 平成25年度に県内で発掘調査された遺跡のうち、報告6遺跡、資料掲載のみ5遺跡の発掘調査成果について、カラー写真と平易な文章で紹介。県内発掘調査遺跡一覧表と遺跡位置図、年表も掲載。		

書名	秋田県埋蔵文化財基準資料2(縄文時代土器集成Ⅱ-中期)	発行年月	26年3月
内容	秋田県教育委員会が発掘調査した遺跡から、縄文時代中期の土器を集成し、基準資料となる132点を掲載。解説文・実測図・カラー写真図版で構成。		

書名	秋田県埋蔵文化財基準資料3(縄文時代竪穴建物跡集成Ⅰ-早期)	発行年月	26年3月
内容	県内で発掘調査された遺跡から、縄文時代早期の竪穴建物跡を集成し、基準資料となる19棟を掲載。解説文・実測図で構成。		

書名	秋田県埋蔵文化財センター年報32(平成25年度)	発行年月	26年3月
内容	秋田県埋蔵文化財センターの平成25年度の歩みを総括し、Ⅰ沿革、Ⅱ組織・施設、Ⅲ平成25年度の歩み、Ⅳ事業の概要、Ⅴ研修事業などを記載。事業の概要では、今年度発掘調査した3遺跡の発掘調査概要、活用・普及事業の実績を掲載。		

5 活用・普及事業

埋蔵文化財センターは、遺跡の発掘調査を中心業務としている。さらに、発掘調査成果をはじめ多くの文化財を活用して、秋田の歴史、地域の歴史を県民に発信するために、資料の公開・活用・普及事業を積極的に推進している。今年度も報告会、企画展、講演会＋座談会、バスツアー、セミナーなど各種事業を実施した。

(1) 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会

秋田県教育委員会及び市町村教育委員会等の実施した発掘調査成果を広く県民に公開し、埋蔵文化財の保護について理解を深めてもらうことを目的に、昭和56年度から報告会を開催している。

今年度は平成26年3月9日(日)、秋田県生涯学習センターを会場に開催し、各地から190名の参加者を得た。参加者は2種類の配布資料に目を通し、メモを取りながら熱心に報告を聞いたり、報告内容について質問をしていた。展示会場でも写真や遺物を前にして質問をする姿が見られた。また、同時開催した考古学体験教室でも、子どもから大人までそれぞれ興味関心を持って各種体験を楽しむ姿が見られ、盛況のうちに終了した。

【報告内容】

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1 平成25年度県内発掘調査の概要 | 小林 克 主任文化財専門員(兼)調査班長 |
| 2 大川端道ノ上遺跡(大仙市) | 伊豆俊祐 調査班文化財主事 |
| 3 神谷地遺跡(横手市) | 横手市教育委員会 信太正樹氏 |
| 4 史跡秋田城跡(秋田市) | 秋田市教育委員会 神田和彦氏 |
| 5 史跡弘田柵跡(大仙市・美郷町) | 五十嵐一治 県教育庁弘田柵跡調査事務所学芸主事 |
| 6 貝保遺跡(八郎潟町) | 山村 剛 中央調査班学芸主事 |
| 7 岩渕蔵遺跡(由利本荘市) | 由利本荘市教育委員会 長谷川潤一氏 |

【展示遺跡】※上記の報告に加え、次の5遺跡の出土品、写真パネル等を展示した。

滝沢城跡(由利本荘市) 小出遺跡(横手市) 下内野Ⅳ・Ⅴ遺跡(鹿角市)
中茂屋遺跡(大館市)



報告会場の様子



展示会場の様子



考古学体験教室の様子



考古学体験教室の様子

(2) 遺跡見学会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査の成果を現地で県民の方々に見ていただくため、遺跡見学会を開催している。現地では、発掘調査中の遺構や遺物の他に、遺跡から出土した土器や石器などを展示し、調査担当者が解説を行っている。今年度は、大川端道ノ上遺跡（大仙市）、貝保遺跡（八郎潟町）で見学会を実施し、延べ115名が遺跡を訪れた。何れも遺跡周辺の方々の参加が多く見られ、地元の関心の高さを示している。

遺 跡 名	日 時	公 開 内 容	参加者
大川端道ノ上遺跡 （大仙市）	10月12日（土） 13：00～15：00	縄文時代の墓域・貯蔵地、中世の屋敷跡（土坑、掘立柱建物跡、縄文土器、石器、陶磁器ほか）	50名
貝保遺跡 （八郎潟町）	10月26日（土） 13：00～15：00	古代の集落跡（竪穴建物跡、井戸跡、溝跡、土師器、須恵器、白磁、鉄製品、木製品ほか）	65名



大川端道ノ上遺跡



貝保遺跡

(3) 学校（教育）サポート

① セカンドスクール

7) 利用状況

学校	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校	合 計
利用件数	21	1	1	4	27
利用人数	702名	12名	6名	18名	738名

4) 活動の具体例

- 1) 縄文土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験
- 2) 大昔の人々の知恵に学ぶ「石器づくり」
- 3) 特別展示室や整理作業室の見学
- 4) 地域の遺跡や文化財の学習を支援する「授業サポート」
- 5) 発掘現場の見学



角間川小学校 6年生

9) 平成25年度の成果



土崎中学校 2年生

展示見学と土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験をセットにした学習を中心に多数の利用があった。また、センター利用の学校のほとんどが、石器づくりを活動に加えるようになった。このほか私田柵跡の見学に際し、ボランティアガイドの会と連携するなど、地域の史跡や文化財に係わる学習について支援を行った。

② ボランティア・職場体験（インターンシップ）

平成18年度からセカンドスクール利用の一環としてボランティア活動や職場体験（インターンシップ）の受け入れを始め、今年度は、特別支援学校1件6名、高等学校4件18名の利用があった。

ボランティアは社会貢献や社会参加の活動を通じて豊かな人間性を育むことをねらいとし、職場体験（インターンシップ）は職業に関する理解を深めることを目的として行っている。



大曲工業高校 2年生

③ 出前授業

今年度の出前授業は県内小学校9件であった。小学校での出前授業は、基本的に、普段埋蔵文化財センターで行っている「土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験」と「地元の発掘調査成果を元にした遺跡や出土品の展示・説明」を組み合わせた授業で、縄文時代を中心に古代から中世にかけての地域の歴史を扱った。出土品を実際に手に取り、地元にも多数の遺跡があることを知ってもらうことによって、児童の、地域の歴史や文化財への興味・関心を深め、その後の歴史学習に対する意欲を高めることを目的とした。

学校名	授業日	対象	テーマ・題材	担当
大仙市立 花館小学校	平成25年4月12日	6年生72名 (2クラス)	縄文の村から古墳の国へ	小徳 晶・袴田道郎 堀川昌英
横手市立 旭小学校	平成25年4月16日	6年生78名 (2クラス)	国づくりへのあゆみ	小徳 晶・堀川昌英
由利本荘市立 子吉小学校	平成25年4月19日	6年生36名	縄文時代と弥生時代の暮らし	袴田道郎・堀川昌英
大仙市立 清水小学校	平成25年5月8日	6年生19名	縄文の村から古墳の国へ	小徳 晶・堀川昌英
横手市立 阿気小学校	平成25年5月9日	6年生19名	縄文のくらしウォッチング	小徳 晶・袴田道郎
湯沢市立 湯沢西小学校	平成25年5月31日	6年生94名 (3クラス)	縄文の村から古墳の国へ	小徳 晶・袴田道郎 堀川昌英
大仙市立 高梨小学校	平成25年6月4日	6年生33名	縄文の村から古墳の国へ	小徳 晶・堀川昌英
大仙市立 高梨小学校	平成25年10月28日	5年生36名 6年生32名	よみがえる平安の柵	高橋和成
大仙市立 横堀小学校	平成25年10月28日	5年生25名 6年生30名	よみがえる平安の柵	高橋和成



花館小学校 6年生



湯沢西小学校 6年生

(4) 主催事業

① 企画展

今年度は「蝦夷と俘囚－古代の秋田人－」と題し、埋蔵文化財センター特別展示室を会場に平成25年7月6日～平成26年3月31日の期間開催した。今回の企画展では、古代の政權から「蝦夷」や「俘囚」と呼ばれていた在地の人々に焦点をあて、近年秋田県内で発見例が増えてきた7世紀から8世紀の集落遺跡を始めとした古代前半の遺跡群の写真パネルやその出土品等を展示し、当時の人々の暮らしや社会を紹介した。

また、企画展に伴う講演会＋座談会「エミシ・俘囚・エゾ」を平成25年9月14日に秋田市文化会館を会場として行い、264名の参加者があった。



企画展展示の様子

【平成25年度企画展 講演会＋座談会「エミシ・俘囚・エゾ」】

講 師 等	演題・内容
秋田県埋蔵文化財センター 文化財主事 高橋和成 札幌学院大学 教授 児島恭子氏 秋田大学 副学長 熊田亮介氏	報告「7～9世紀の秋田－俘囚の墓－」 講演「エゾの社会・文化の多様性と蝦夷論」 講演「蝦夷をめぐる」
司会：早稲田大学 名誉教授 菊池徹夫氏 パネリスト：上記3講師	座談会「エミシ・俘囚・エゾ」 各パネリストの専門的見地から、蝦夷・俘囚の社会や文化について語り合っていたき、さらに考古資料と文献史料とをすり合わせながら、古代出羽社会の実態について考えた。



司会の菊池徹夫氏



3名のパネリスト

② ふるさと考古学セミナー

第1回 「土偶ユニバース」 秋田県立博物館

期 日：平成25年7月21日（日） 参加者：43名

講 師：八木勝枝氏（岩手県立博物館）

小松和彦氏（小松クラフトスペース）

司 会：吉川耕太郎氏（秋田県立博物館）

土偶について考える講演や座談、土偶の実見を行った。小松氏から土偶とアートとの関係等について、八木氏から「土偶まんだら」展での内容や縄文人の心の世界、土偶研究史等について概説いただいた。参加者からの質問や意見も多く、土偶に対する興味関心の高さがうかがえた。座談終了後、学習室に移動し、土偶を実見しながらの解説も行った。

第2回 「クマと土偶とシャマンと」 秋田県立図書館

期 日：平成25年8月11日（日） 参加者：39名

講 師：小林 克（秋田県埋蔵文化財センター）

県立図書館2階特別展示室で開催中の出張展示「鬼に金棒・土偶に石棒」にあわせ、縄文時代後期の文化と北方的な民俗との関係を考えるセミナーを県立図書館との共催により開催した。講演ではクマの骨を祀った遺跡の紹介やシャマニズムとの関わりから、狩猟文土器と北方民俗の概説を行った。講演後、展示会場に移動し、展示解説も行った。

第3回 「縄文前期の社会」 能代市中央公民館

期 日：平成25年10月19日（土） 参加者：33名

講 師：小林圭一氏（山形県埋蔵文化財センター）

佐藤鏡司氏（由利本荘市教育委員会）

司 会：小林 克（秋田県埋蔵文化財センター）

佐藤氏から由利本荘市堤鍋遺跡の発掘調査の様子、小林圭一氏からは山形県内の遺跡の分析を通して縄文前期の状況を紹介いただき、座談では開催地能代の杉沢台遺跡と同時期の縄文時代前期社会の様子を考察した。会場はほぼ満席で、参加者の質問にも応じながら、活発な意見交換がなされた。

第4回 「末期古墳の西東」 秋田県立博物館

期 日：平成25年11月16日（土） 参加者：75名

講 師：八木光則氏（岩手大学）

高橋和成（秋田県埋蔵文化財センター）

司 会：谷地 薫氏（秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室）

「末期古墳」をテーマとし、講演と座談を行った。高橋からは秋田県の古墳時代の状況や末期古墳の特徴、代表的な遺跡と副葬品の特徴などについて、八木氏からは末期古墳の4期にわたる変遷や副葬品の変化、岩手県を例にした古墳と集落の関係などについて概説いただいた。座談ではそれぞれの講演内容を振り返り、参加者の質問にも応じながら、出羽と陸奥との共通性や違いなどについて意見交換がなされた。



講師の小松氏（左）と八木氏



講演の様子



講師の小林氏（左）と佐藤氏



八木氏の講演の様子

③ 古代発見！バスツアー

遺跡や史跡をバスで巡回し、郷土の歴史や文化財について理解を深めてもらうとともに、埋蔵文化財センターの活動を広く知ってもらおうという事業である。今年度は、秋田市発着で「県南の遺跡探訪コース」を2回、「みちのくの古墳探訪コース」を3回実施した。

新聞・チラシ・ホームページ等で広報し、各コース定員を上回る応募があった。特に北上市まで足をのばした「みちのくの古墳探訪コース」は、初の県外ツアーということもあり、希望が多かった。

回	期日・参加人数	内 容 ・ コ ー ス
第1回	6月20日(木) 【参加者43名】	県南の遺跡を探訪。ガイドはセンター職員が行い、神谷地・小出遺跡は横手市教委職員に、長蓮寺遺跡は湯沢市教委職員に解説をいただいた。
第2回	6月25日(火) 【参加者48名】	・県生涯学習センター→神谷地・小出遺跡(横手市)→長蓮寺遺跡→岩井堂洞窟→院内銀山異人館(湯沢市)→県生涯学習センター ※長蓮寺遺跡のある高松地区センターで昼食。三途川化石資料を見学。
第3回	10月1日(火) 【参加者48名】	みちのくの古墳を探訪。ガイドはセンター職員が行い、江釣子古墳群、北上市立博物館では北上市教委職員に解説をいただいた。
第4回	10月3日(木) 【参加者42名】	・県生涯学習センター→埋蔵文化財センター→江釣子古墳群(北上市)→北上市立博物館・みちのく民俗村→県生涯学習センター ※埋蔵文化財センターで企画展「蝦夷と俘囚-古代の秋田人-」を見学。センター職員が解説。
第5回	10月8日(火) 【参加者40名】	※みちのく民俗村で昼食。古民家などを見学。 ※北上市立博物館では江釣子古墳群の出土品などを見学。

県南の遺跡探訪コースでは、発掘調査中の神谷地・小出遺跡で縄文、弥生、古代の各遺構、長蓮寺遺跡で縄文後期の環状列石、岩井堂洞窟・院内銀山異人館で縄文早期の洞窟遺跡の様子を巡見した。



第1回 長蓮寺遺跡の見学



第1回 国史跡岩井堂洞窟の見学



第1回 院内銀山異人館の見学



第2回 神谷地遺跡・小出遺跡の見学

みちのくの古墳探訪コースでは、当センター企画展を見学し、展示中の資料や出土品から、県内の末期古墳の様子を紹介した。その後、北上市の江釣子古墳群や北上市立博物館を巡見したが、参加者のみなさんは県内では目にすることのない古墳の墳丘などに興味深く見入っていた。



第3回 埋蔵文化財センターの見学



第4回 国史跡江釣子古墳群の見学



第4回 みちのく民俗村の見学



第5回 北上市立博物館の見学

④ 出張展示

出張展示は埋蔵文化財を活用した展示をセンター以外の施設でも行い、より広く県民に公開することによって地域の歴史や文化、埋蔵文化財に対する理解を深めていただくことを目的としている。今年度は平成25年7月2日（火）から8月17日（土）まで、県立図書館を会場に「鬼に金棒・土偶に石棒」と題した展示を行った。展示は池内遺跡、八木遺跡、ヲフキ遺跡、堀ノ内遺跡、虫内I遺跡、戸平川遺跡などから出土した121点の埋蔵文化財センター所蔵の土偶や石棒と写真パネルを中心に構成し、それらの特徴や時期ごとの変遷などを示した。期間中の8月11日（日）に第2回ふるさと考古学セミナーを同会場で開催し、セミナー終了後に展示解説を行った。セミナーから引き続き参加された見学者が多く、説明に耳を傾けながら熱心に展示に見入り、質問も多く出るなど盛況であった。開催中4,292人の来場者があり、県立図書館には広報や運営等で多大な協力をいただいた。



出張展示会場



展示解説の様子

（5）共催・機関連携等による普及事業

① 農業科学館まつり

7月14日（日）に開催された「農業科学館まつり」で、協力団体の一つとして「縄文時代の遊びと生活体験」のコーナーを設け、訪れた家族に石器づくりや縄文文様染め、弓矢体験を楽しんでもらった。それぞれ10～15分程度の体験で、昨年を上回る延べ126人の参加者があった。体験メニューが増えたこともあって、幼児から年配者まで幅広く利用してもらい、埋蔵文化財センターの体験活動を多くの人にPRできた。



縄文文様染め



弓矢体験

② 土器に生ける秋の草花展

県立農業科学館との共催で、10月12日から10月27日まで開催した。今年度は、横手市竹原窯跡、富ヶ沢窯跡出土の須恵器8点、湯沢市館堀城跡出土の中世陶器2点及び関連するパネル資料を展示した。秋の草花は東大曲小学校6年生のみなさんにアレンジしてもらい、甕や壺をベースに、ユニークな作品ができあがった。期間中、多くの見学者が訪れ、新聞でも取り上げられるなど好評を博した。



農業科学館展示会場

③ あきた県庁出前講座

月 日	要請団体	内 容	番号	講 師	会 場
9月30日(月)	北羽歴史研究会 (大館市)	「出土品から学ぶ秋田の歴史－大館市の遺跡－」 【参加者 約40名】	175	榮 一郎	大館市立中央公民館

センターで過去に調査した根下戸道下、坂下Ⅱ、池内、堂ノ沢など大館市内の遺跡について、発掘調査成果を紹介しながら、縄文時代から古代にかけての大館地区の歴史を概説した。また、紹介した遺跡の出土品を展示し、実見してもらいながら解説を行った。スライドの説明や展示解説に耳を傾け、熱心にメモを取ったり、展示品に興味深く実見している参加者の姿が数多く見られた。講演の内容や展示品についての質問も多く、関心の高さがうかがえた。

④ 美の国アクティブカレッジ連携講座「発掘！考古ゼミ」

生涯学習センターとの機関連携事業である。県の教育機関が連携し、相互に特徴を生かすことによって活性化を図ることをめざしている。今年度も秋田県生涯学習センターを会場に4回開催し、秋田市を中心に多くの受講者があった。なお、第3回については秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室主任学芸主事の谷地薫氏に講師を依頼して行った。

回	日 時	講演テーマ	講 師
第1回	11月22日(金)	縄文前期の社会 【参加者 35名】	中央調査班文化財主査 加藤 竜
第2回	11月29日(金)	土偶と石棒－秋田における変遷について－ 【参加者 38名】	資料管理活用班主任文化財専門員 (兼) 班長 榮 一郎
第3回	12月6日(金)	7～9世紀の秋田 【参加者 45名】	秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室 主任学芸主事 谷地 薫 氏
第4回	12月13日(金)	久保田城城下町の考古学 【参加者 24名】	中央調査班学芸主事 山村 剛

(6) その他

① 所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し実績

年 度	23年度	24年度	25年度
所蔵資料 貸 出 数	17件	25件	29件
キ ャ ッ ト 貸 出 数	4 件	3 件	5 件
ビ デ オ 貸 出 数	0 件	0 件	0 件
火 起 こ し 貸 出 数	2 件	1 件	2 件

※所蔵資料貸出内訳

資 料 種 別	使用目的 (複数利用含む)		
	展示公開	書籍等掲載	研究他
遺 跡 出 土 品	7 件	2 件	7 件
フィルム写真データ	0 件	1 件	0 件
デジタル写真データ	1 件	10件	0 件
そ の 他	1 件	4 件	3 件

② センターの開放と展示

見学者に、より身近に埋蔵文化財を理解していただくために「いつでもギャラリートーク」を行っている。これは、平日の開館時間に来所された見学者には、要望に応じて専門職員がいつでも展示品の解説を行うというものである。さらに展示ケースを開けて実際の遺物に触れていただき、展示品を「見る」だけでなく、古の息吹をじかに「感じて」いただけるようにしている。ギャラリートークの所要時間は見学者の希望に合わせて15～30分程度である。また、企画展パンフレットや過去の印刷資料なども自由に持ち帰れるようにしている。

	開館時間	見学可能箇所
平 日	8：30～17：00	特別展示室・第1収蔵庫(※)・整理室(※)・中央調査班展示室
土・日・祝日	9：00～16：00	特別展示室

(休館日：1月1日～3日、成人の日、建国記念の日、春分の日、12月29日～31日)

※は職員の案内によって可能

③ 図書整理・図書一般公開

昨年度から継続して図書の整理、配架を行い、図書の利用環境を整備した。また、全国遺跡資料リポジトリ事業における秋田県遺跡資料リポジトリ公開用電子データとして、秋田大学附属図書館に今年度本センターで刊行した発掘調査報告書のPDFデータを提供した。また、秋田県立図書館デジタルアーカイブ公開用電子データとして、本年度の企画展パンフレット「蝦夷と俘囚ー古代の秋田人ー」のPDFデータを同図書館に提供した。これらのデータは、各機関で準備が整い次第、インターネット上で公開される予定である。

秋田大学附属図書館「秋田県遺跡資料リポジトリ」アドレス：<http://rar.akita.nii.ac.jp/>

秋田県立図書館「デジタルアーカイブ」アドレス：<http://da.apl.pref.akita.jp/maibun/>

(7) 研究論文・講演等

(平成25年5月)

〈解説〉小林 克 「環状列石」『事典 墓の考古学』(株)吉川弘文館

(平成25年10月)

〈論文〉小林 克 「上埴遺跡出土の大型磨製石斧」『季刊考古学』第125号(株)雄山閣

(平成25年11月)

〈発表〉小林 克 「縄文時代の漆製品－櫛飾りの考古学」『公開シンポジウム縄文時代装身具の考古学』早稲田大学先史考古学研究所

(平成26年1月)

〈論文〉高橋和成 「秋田における古代道路遺構－清水尻Ⅱ遺跡とその周辺－」『国土館考古』第6号
国土館大学考古学会

〈講演〉高橋忠彦 「大館市・北秋田市の歴史－遺跡が語るものがたり－」平成25年度大館北秋田
教頭研修大会

(平成26年2月)

〈講演〉高橋和成 「清水尻遺跡」『にかほ市郷土史市民講座』金浦勤労青少年ホーム

6 運営協議会

第1回 平成25年6月12日(水)

委 員：石郷岡誠一(委員長)、佐藤厚子(副委員長)、高橋茂則、栗林守、高橋玲子、山崎裕子、中山
厚子、池田光英、工藤侃

事務局：高橋所長、京副所長、久米総務班長、谷地主任学芸主事(記録)

冒頭に所長から、委員長、副委員長選任の依頼の後、今年度は発掘調査3か所が予定され、全体予算も縮小したが、活用事業について委員各位の御意見を賜りたいとのあいさつがあった。この後、委員長に石郷岡誠一氏、副委員長に佐藤厚子氏の事務局案が全会一致で承認された。

続いて石郷岡委員長から、この会の運営を円滑に進めていきたい旨が話された。そして、今年度の発掘は3か所の予定だが、一方で、払田柵跡、秋田城跡などの史跡の整備が進み、その活用方策が求められている。また、地域の人たちへの教育普及活動が求められている。どんなことができるか考えていきたいと、抱負が話された。その後、報告及び協議に移った。副所長から平成25年度の発掘調査及び平成25年度の活用事業計画について報告があった。施設見学後の協議は、石郷岡委員長の司会で進められた。まず、所長から、配付資料に基づき、(1)～(4)の四つのテーマについて説明があり、各委員からそれぞれについての質問や提言が出された。各委員からの主な提言は次のとおりである。

(1) セカンドスクールの利用の新メニューの開発

- ・校長会やホームページでの紹介など、セカンドスクールの利用の広報の工夫が必要である。
- ・ホームページをより分かりやすく作成する。
- ・本物との出会いが出前授業でできれば、もっと増えることが予想される。

(2) 遺跡マップと出土品リストの作成

- ・遺跡マップと出土品リストは必要なこと。地域振興局の9地域に分割したら利用しやすい。

(3) 地域関係機関との連携

- ・公民館事業、カルチャースクールなどとの連携を図るとよい。
- ・体験活動は、地域のイベントとの連携があれば効果がある。
- ・観光からも体験活動が注目されている。仙北地域振興局総務企画部地域企画課で作成した体験ガイドブックなど各パンフレットで、弘田柊跡を紹介している。

(4) 収蔵庫の活用

- ・収蔵庫の蔵出しはとてもよい。出張展示をしたら解説者を置いてほしい。
- ・池内遺跡などの展示会や講演会などを地元で是非やってほしい。
- ・その他では、施設に愛称をつけたり、キャラクターを活用したりして、多くの人に埋蔵文化財センターを知ってもらい、より身近な埋蔵文化財センターになってほしいなどの提言があった。

以上の提言を受けて、所長より、新メニューの開発など、この後いろいろ試してみてもいい、検討したい。課せられた課題は多いが、今回いただいた意見や提言を検討し、次回報告したい旨が述べられた。

第2回 平成26年2月5日(水)

委員：石郷岡誠一(委員長)、佐藤厚子(副委員長)、高橋茂則、栗林守、高橋玲子、中山厚子、池田光英、工藤侃

事務局：高橋所長、京副所長、久米総務班長、小林調査班長、利部中央調査班長、榮資料管理活用班長、栗澤副主幹(記録)

会に先だち、所長が挨拶し、悪天候で年度末の忙しいなか出席いただいた委員に対する謝辞があった。その後、石郷岡委員長から、本日の運営協議会は盛り沢山の内容になっているが、委員の皆さんの協力を得て円滑に進めていきたい旨の挨拶があった。次いで、事務局より平成25年度の発掘調査事業、保管活用事業、研修事業、平成26年度の発掘調査事業計画案、保管活用事業計画案の順で報告が行われた。その後、企画展の展示見学を行い、協議に移った。

協議は、石郷岡委員長の司会で進められた。最初に、所長から今年度1月末現在の入館者数について前年度同期より約1千人減少になっている状況とその理由について説明があった。また出前授業についても、中学校の利用が今年度なかったことに触れ、利用者数が減少している状況を説明した。委員からは、出前授業が好評であることや、出前授業について大規模校へも直接出向いて校長先生に勧めた方が効果が大いだろうという意見をいただいた。また、次年度の弘田柊跡調査事務所40周年事業の一環で実施される企画展が楽しみであり、子ども達にも紹介して、いろんな機会をつくって触れさせたいという発言も出た。また、農業科学館との連携で行われた土器に生ける秋の草花展に触れ、生けた小学生は楽しかっただろう、そして、そのような土器がいろんな小学校にあってもいいのではという意見が出された。他に、発掘調査見学会に初めて参加した委員から、参加者がみな熱心に説明を聴いているのにびっくりしたことや、子ども達が実際に遺跡を目の当たりにし本物を見ることができるよう、調査遺跡のある地域の学校に案内を出してみることも考えたらいいという提言があった。その他では、ホームページの内容が充実している、親しみやすいという意見も出された。委員長からは、10月からは国民文化祭が始まる。大仙市と連携しながら、子ども達や地域の人達を巻き込みながら、事業を展開してもらいたいという提言があった。

最後に、所長から委員に対し、意見・提言をいただいたことに対する謝辞と、各委員の任期が後1年あることを確認し、次年度も引き続き委員をお願いして、終わりの挨拶とした。

V 平成25年度研修事業

1 研修受け入れ

(1) 高校生インターンシップ

実施日：平成25年7月23日～7月25日 研修者：秋田県立大曲工業高校土木・建築科2年2名
秋田県立六郷高校普通科2年1名

実施日：平成25年7月30日～8月1日 研修者：秋田県立大曲工業高校電気科2年3名

(2) 県立高等学校10年経験者研修（選択研修）

実施日：平成25年7月26日・29日 研修者：毛利 美樹(秋田県立能代松陽高等学校教諭)

(3) 特別支援学校体験学習

実施日：平成25年8月19日～8月21日 体験学習者：秋田県立聾学校高等部2年生1名

(4) 国立大学法人秋田大学企業・行政研修

実施日：平成25年8月28日 研修者：教育文化学部地域科学課程3年2名

2 職員研修

(1) 第1回職員技術研修会【大川端道ノ上遺跡発掘調査現場】

テーマ：トータル・ステーション、Illustratorを利用した遺構作図と報告書版下作成

実施日：平成25年8月23日 研修者：センター職員全員（総務班を除く）

参加者：小野隆志・眞井田宏彰（秋田市教委）、齋藤浩志・佐藤健太郎（大仙市教委）、
五十嵐祐介（男鹿市教委）、黒沢健明（鹿角市教委）、播摩芳紀（能代市教委）

(2) 奈良文化財研究所文化財担当者専門研修（三次元計測課程）

実施日：平成25年9月30日～10月4日 研修者：伊豆俊祐（調査班）

(3) 所員研修報告会【会場：中央調査班】

実施日：平成25年12月5日（第1回） 研修者：センター職員全員（総務班を除く）

平成26年3月14日（第2回） 研修者：センター職員全員（総務班を除く）

(4) 石器石材鑑定研修【野尻湖ナウマンゾウ博物館】

実施日：平成26年1月27日～1月30日 研修者：赤星純平（調査班）

(5) 埋蔵文化財担当職員等講習会【栃木県総合文化センター】

実施日：平成26年2月5日・6日 研修者：高橋和成（調査班）

(6) 陶磁鑑定研修【愛知県陶磁美術館】

実施日：平成26年2月7日 研修者：山村 剛（中央調査班）

(7) 古代城柵官衙遺跡検討会及び山形県内出土文字資料調査【山形県埋蔵文化財センター、他】

実施日：平成26年2月22日～25日 研修者：佐々木尚人・伊豆俊祐(調査班)

(8) 防災・交通安全・健康講話【本所・中央調査班】

実施日：平成25年4月26日、6月10日（防災・避難訓練） 研修者：センター職員全員

実施日：平成25年4月30日、5月28日、11月28日・29日（交通安全） 研修者：センター職員全員

実施日：平成25年11月19日（救急救命講習会） 研修者：センター職員全員

3 発掘調査における実測作業のデジタル処理に関する研修

発掘調査現場での測量作業に、トータル・ステーションが導入されるようになって20年ほどになる。精密な計測が可能ことから測量原点の座標計測などには必須の機材であるが、発掘調査の記録として不可欠な遺構図の作成にも利用できる。さらに昨今では報告書作成作業でのパソコンの利用、特に版下作成においてIllustratorを利用する機会が多くなってきた。発掘現場で作成された遺構図もIllustratorを用いてトレースし、版下に組み上げることが、一般的な工程になっている。

このような状況に鑑み、今年度の技術研修会では発掘調査報告書での遺構図の版下作成を目標に、現場段階でのトータル・ステーションを利用した原図作成、及び作成した原図からIllustratorを利用して遺構図版下を製作するトレース作業の研修を行った。実際には、今年度発掘調査を実施した大川端道ノ上遺跡で導入したトータル・ステーション(Pentax R-460Nc)を使用し、①遺構平面を計測する。②その測点データをGioLine(Sen Katagiri氏作成フリーソフト)で処理する。③それらをJw_cad(Jiro Shimizu & Yoshifumi Tanaka氏作成フリーソフト)で図化する。④③の図面を現地で手書き補正する。⑤補正した図面および別に手測りで作図した断面図をスキャニングする。⑥スキャニングした画像データをIllustrator上でトレースする。以上のような手順である。



トータル・ステーション



ミラーでの計測



Illustrator講習



GioLineでの処理

当日は当センター職員20名のほか、秋田市、大仙市各2名、男鹿市、能代市、鹿角市各1名の教育委員会職員の参加があり、トータル・ステーションの操作およびIllustratorの効率的な利用等に対する関心の高さがうかがわれた。

既に発掘調査現場での写真撮影もデジタル化し、将来的に報告書作成にかかる作業も大部分デジタル化された方法で行われることが予想される。今年度の研修は、そのような発掘調査から報告書作成にいたる一連の作業を効率的に進めるための実習であったが、今後、発掘現場や室内作業で作成されたデータをどのように格納・保管して行くかも課題となる。デジタル化された記録の保存は紙ベースで行っていた保管とは全く異なる次元にあり、作業の効率化以上に重要な課題となろう。

VI 職員名簿

職 名	氏 名
所 長	高 橋 忠 彦
副 所 長	京 久 夫

総務班

副主幹（兼）班長	久 米 保
主査	柴 田 真 希
主査	小 松 正 典
非常勤職員	柴 田 陽一郎

調査班

主任文化財専門員（兼）班長	小 林 克
副主幹	栗 澤 光 男
（兼）学芸主事	五十嵐 一 治
学芸主事	佐々木 尚 人
文化財主事	高 橋 和 成
文化財主事	伊 豆 俊 祐
文化財主事	赤 星 純 平

中央調査班

主任文化財専門員（兼）班長	利 部 修
主査	菊 地 尚 久
学芸主事	山 田 徳 道
学芸主事	水 品 仁 志
学芸主事	築 瀬 圭 二
学芸主事	山 村 剛
文化財主査	加 藤 竜
文化財主任	菅 野 美香子
文化財主任	山 田 祐 子
非常勤職員	泉 明

資料管理活用班

主任文化財専門員（兼）班長	榮 一 郎
主任学芸主事	谷 地 薫 (～平成25年9月)
学芸主事	小 徳 晶
学芸主事	袴 田 道 郎
学芸主事	堀 川 昌 英

秋田県埋蔵文化財センター年報32

(平成25年度)

発 行 平成26年3月
秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802 大仙市払田字牛嶋20番地
電 話 (0187) 69-3331
FAX (0187) 69-3330
[URL] [http://www.pref.akita.jp/
gakusyu/maibun_hp/index2.htm](http://www.pref.akita.jp/gakusyu/maibun_hp/index2.htm)

